

I 実践

1 研究主題 豊かな心情や人権尊重の精神を育み、認め合い、助け合う子どもの育成

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は、「夢の実現に向けて、生き生きと目を輝かせて学び合う、成沢っ子の育成～みんな大好き・ドンマイ・ありがとうの心をはぐくみながら～」である。これを受け、人権教育では、『子ども一人一人に人間尊重の自覚をもたせ、認め合い、助け合う子どもの育成』を目標としている。児童は、全体的に明るく素直であるが、自己中心的であったり相手を思いやる配慮に欠ける言動をしたりする児童も見られる。これは、多様なメディアからの影響や家庭環境の変化、様々な人とかかわる機会の減少などが要因として挙げられる。そこで、学校の教育活動全体を通して、相手の立場を思いやり、認め合い、助け合う子どもを育成することが大切であると考え、本主題を設定した。

(2) 実践内容

ア 好ましい人間関係づくり

イ 人権教育の視点に立った学習活動づくり

ウ 人権尊重の視点に立った環境づくり

2 実践内容

(1) 好ましい人間関係づくり

ア Q-Uの実施

学級集団全体の状態をデータとして把握するとともに、特別に支援を必要とする児童を把握するため、3年生以上の各学級で5月・10月に実施している。5月の実施結果をもとに、今後の対策を計画・実行し、10月は前回と比較し、更に改善を図る。

イ 学校生活アンケートと面談の実施

毎学期実施する学校生活アンケートをもとに面談を行い、交友関係の把握やいじめ、生徒指導の諸問題の早期発見と早期対応に生かす。

ウ 児童と教師及び児童間の皆遊

本校では、休み時間に教師と児童と一緒に外遊びを行っている。教室の中だけでは分からない児童の様子や交友関係も把握でき、一人一人へのきめ細やかな支援に役立っている。

エ 様々な人とふれ合う体験

- ・体の不自由な人（福祉体験・日立特支・太田養護学校との居住地校交流など）
- ・高齢者（昔遊び・運動会・敬老会など）
- ・外国の方（ALT・海外からの体験入学・本校の外国籍の友達など）
- ・様々な職業人（町探検・新聞社見学など）
- ・異年齢（学校探検・6年と1年の交流・園児1日入学・多賀中生との交流など）
- ・地域の大人（子ども会球技会・鮎川溪谷探勝会・おやじの会のイベント）

オ グループエンカウンターやアサーショントレーニングの積極的な活用

学級の実態や児童の発達段階を考慮しながら、好ましい人間関係を構築するための雰囲気づくりやスキルを学ぶことが大切と考え、積極的に取り入れている。

(2) 人権教育の視点に立った学習活動づくり

ア 福祉体験学習

盲導犬（アイメイト）と共に生活する地域の方をゲストティーチャーとして招待し、講話をいただいた後に、目の不自由な方へのサポートの仕方を親子で体験した。また、アイマスク体験や車椅子体験、シニア体験も行い、体が不自由な方にとって町には不便な場所が多いことを知った。これらの福祉体験学習を通して、体が不自由な方への共感的理解を深め、だれもが住みよい町づくりの大切さに気付くことができた。



イ いのちの教育

助産師の講話を通して、人の誕生のしくみや命の大切さを学び、児童一人一人の自尊感情を高めることをねらいとする学習である。4年生の児童と保護者が参加して行われた。



ウ 道徳の授業公開（全学年「道徳」）

授業参観では、保護者に道徳教育や人権教育への理解を促すことをねらいとして全クラスが道徳の授業公開を行っている。また、学年だよりで啓発内容を掲載したり教室に掲示したりすることで、学習したことが意識化だけにとどまらず道徳的实践力へとつながるように工夫した。

エ 「人権メッセージ」（全児童）「人権書道」や「人権ポスター」（5・6年）への取り組み

オ 人権集会「ハートほっこり集会」の実施

日頃なかなか伝えられない感謝の思いをカードに書き、伝える活動である。集会では、各学級代表が友達への思いを伝えた。お互いの気持ちを理解し、深め合うことができた。



カ 人権教育の視点に立った授業づくり

キ オンラインワン賞

全児童を対象に、年間を通して、誰もが1回は校長から直接授与される賞である。一人一人のよさや頑張りを認め、称賛する「オンラインワン賞」により児童の自己有用感が高まった。

ク 茨城県人権擁護委員による人権教室の実施（3年：10月・6年：12月）

DVD「いじめはゼッタイわるい」を鑑賞し、その感想をもとにみんなで話し合いを行った。



(3) 人権尊重の視点に立った環境づくり

ア 好ましい言語環境づくり

相手の立場を尊重し、「さん」付けで呼び合い、全児童、全職員が丁寧な言葉遣いで話している。

イ 好ましい生活環境づくり

「お掃除は心磨き」をキャッチフレーズに清掃活動に取り組み、朝も日直による「清めの掃き掃除」を行っている。階段や教室にも花が飾られ、清潔で潤いのある環境が実現できている。

ウ 道徳・人権コーナーの設営

学年や学級に人権コーナーを設け、課題に気付くことができるよう支援した。

エ ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境づくり

誰もが落ち着いて学習できるように、教室前面の掲示物は必要最小限にして、すっきりさせた。

オ 3人組の座席

児童の中には、人間関係づくりや学習の理解に時間を要する等の理由から居心地の悪さを感じてしまう子がいる。互いの個性を生かし、一緒に考えたり、助言したり、発表の練習をできるよう3人組の座席にして、助け合いや学び合いができる児童の育成を図った。

3 成果

- (1) Q-Uや学校生活アンケートによる児童の実態把握は、いじめ等の問題の未然防止に役立った。
- (2) 積極的な児童との関わりや SST、SGEにより、人間関係づくりが苦手な児童への支援ができた。
- (3) 人権が尊重される環境やよさ・頑張りの認め合い、「未来パスポート」の活用で自己肯定感が高まった。
- (4) 様々な人とのふれ合い、相手の立場や気持ちを考える活動により地域の人、家族や友達など多くの人々に支えられていることに気づき、周りの人々に感謝の気持ちをもつとともに自尊感情や自己有用感を高めることができた。

II 今後の課題

- (1) 人権を守る実践行動を育成するための教育活動の見直しと改善
- (2) 人権に関する理解と認識を高め、指導力の向上を図る職員研修の充実
- (3) 家庭や地域と連携した啓発活動の推進
- (4) 人権コーナーの工夫